

大阪女学院中学校・高等学校

2013年度学校評価(自己評価) 2014年度関係者評価

2014年10月28日 大阪女学院中学校・高等学校 学校評価委員会

はじめに

本校の学校評価は2008年度に始まり、今年で6年目を迎えます。2008年、2011年度と3年ごとに詳細なアンケートを実施し、間の2年間はアンケート項目を減らして、生徒の意識推移を追う形でしてきました。今年も、この結果を基に本年度の自己評価、分析を行いたいと考えます。

また、すべての教科について、授業アンケートを、5項目(2008年度は4項目)について継続して実施しています。本評価では、すべての教科の合計を中学校、高等学校ごとにまとめたものをもとに、教科学習の評価を行いました。

グラフに記されているパーセントは、質問に対する肯定的回答を合計した値を示しています。

2012年度自己評価に基づく2013年度課題の成果について

【課題】学校自己評価の結果より、キリスト教教育をはじめ、解放(人権)教育、行事、クラブ活動、生活・進路指導、国際教育等については、本校の教育理念に基づいて、信じることをこれからも自信をもって生徒に教育していきたいと考えます。授業については、塾等での個別指導を受けてきた生徒たちが増え、さまざまな場面で映像による情報伝達が当たり前になり、ことばの力が弱まる傾向にある現代にあって、既に手がけている少人数制や習熟度別クラスのみならず、すべての教科における授業内容の精査、教授法への工夫が改めて必要であることを痛感させられます。今年度、各教科で、また教科をこえてテーマを共有し、系統立てた学習や基本的な学習の習慣づけのための訓練が必須であると考えています。中学1～3年生の毎週土曜の自主学習時間に加えて、中1には「OJ Diary」を用いて、学習・生活スケジュールの自己管理の指導をはじめます。また、高校3年生の国公立センター、二次、私大一般、各入試対策のため、12月以降のサポート体制を強化が必要です。

新指導要領の中学校2012年度完全実施、高等学校2013年度より順次実施に伴う本校カリキュラムの改訂に続いて、2012年度から全教科でスタートしたシラバスの作成だが、2014年度に向けて完成させ、その後随時改善しようと考えています。これまでの教科指導を見直し、生徒の現状、時代状況を加味して、大阪女学院らしいシラバスを作成していきたいと思えます。

中学生のスケジュール管理指導の改善のため、「OJ Diary」を改訂し、指導を継続していくことはもとより、2学期からは、高校3年生の進路決定者によるビッグシスター制度 - 中1・中2の要支援生徒への高3生徒による個別指導 - が始まり、当該生徒たちのモチベーションアップに役立っています。また、3学期には高3生徒の受験直前指導を強化するため、センター試験、私大・国公立入試直前補習を行い、自習及び質問のための体制を整えました。

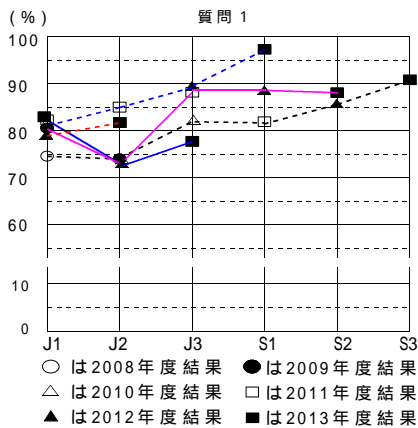
【 自己評価 】

(A)キリスト教教育、解放(人権)教育による人間教育

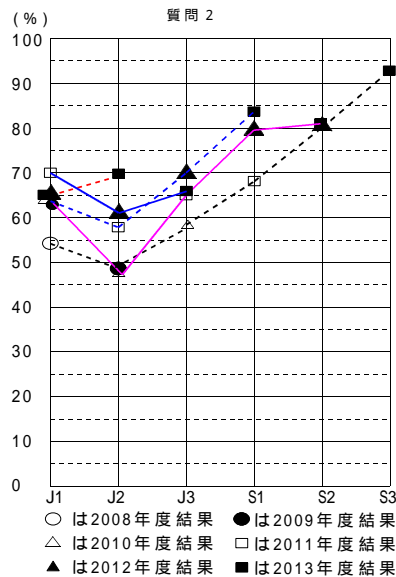
(質問1)「本校はキリスト教主義の学校として、礼拝や宗教行事等の様々な機会を通して、『すべてのものは、それ自身で存在しているのではなく、神様によって創造されて存在していること』『あなたを含め、人間一人ひとりが、神様にとって大切な存在として愛されていること』を皆さんに伝えようとしています。そのような学校の方針を理解していると思いますか。」

(質問2)「朝の礼拝(チャペル・クラス)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。」

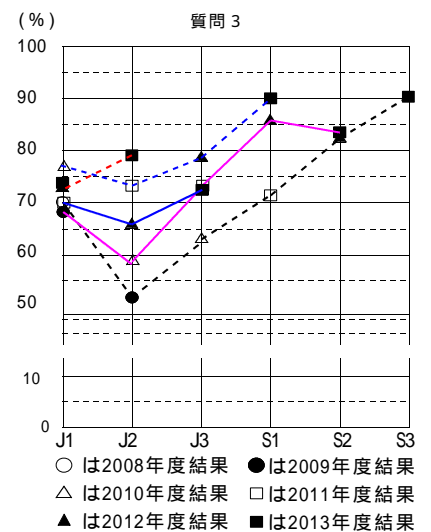
(質問3)「宗教行事(修養会・伝道週間・訪問行事等)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。」



質問 1 . 本校はキリスト教主義の学校として、礼拝や宗教行事等の様々な機会を通して、「すべてのものは、それ自身で存在しているのではなく、神様によって創造されて存在していること」「あなたを含め、人間一人ひとりが、神様にとって大切な存在として愛されていること」を皆さんに伝えようとしています。そのような学校の方針を理解していますか。



質問 2 . 朝の礼拝(チャペル・クラス)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。



質問 3 . 宗教行事(修養会・伝道週間・訪問行事等)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。

思春期のある時期(特に中2)には、キリスト教教育について、素直に受け止められない時期がありますが、学校として信じる真実を語り、取り組みを継続していく中で、やがて重要なことが伝わることは確信しています。ただ今年度はじめて表れた傾向として、高2でほんの僅かですが質問1～3についての肯定的回答の数値が下がっているということです。この学年は、中2での数値の落ち込みがとても大きかった学年で、その後中3でV字回復しました。感情を正直に表す学年であるため、2回目の葛藤期を迎えている可能性があり、高3での動向を見守りたいと思います。また、今年の中2は、質問1～3までのすべてについて、肯定的な回答が中1の数値を上回る結果が出ました。ここ数年、中2での落ち込みのカーブが緩やかになる傾向がありましたが、質問2・3すべてについて中2で上昇に転じたのは初めてです。学校の教育方針を素直に受け止めることができていると同時に、大人や社会に反発し、批判的に物事を見る、自らを葛藤状態に置くことに不安を感じるようになってきているのではないかと考えられます。面と向かって大人と対立する思春期のあり方が変化しているのは、子どもの側だけの変化ではなく、大人の側も対立を避ける傾向にあることをしめしているのではないかと推測されます。

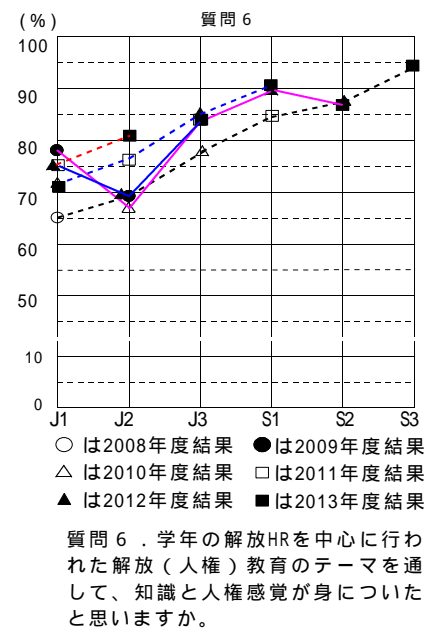
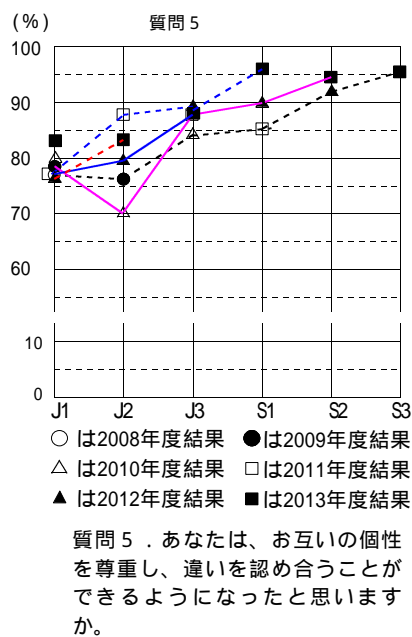
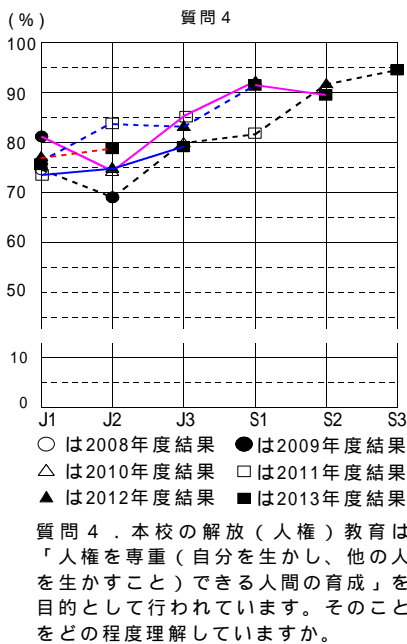
【 自己評価 】

(質問4)「本校の解放(人権)教育は『人権を尊重(自分を生かし、他の人を生かすこと)ができる人間の育成』を目的として行われています。自分は本校の解放(人権)教育について理解していると思いますか。」

(質問5)「あなたは、お互いの個性を尊重し、違いを認め合うことができるようになったと思いますか。」

(質問6)「学年の解放(人権)HRを中心に行われた解放(人権)教育のテーマを通して、知識と人権感覚が身についたと思いますか。」

人権教育については、キリスト教教育で見られた中2での落ち込みが幾分緩やかである傾向がさらに顕著で、2010年度中学入学生(現中3)以降の生徒は、いずれも中1～中2での落ち込みがほとんどなく、わずかながら上昇または現状維持のカーブを描いています。これ以前にはなかったカーブであり、この傾向が続いているため、高校での推移を見守りたいと思います。



【 学校関係者評価 】

価値観の多様化に伴い、物事の判断基準、考え方の指針が見出しにくくなっている現代社会にあって、本校のキリスト教、聖書の考え方を学ぶことは、自分自身の中にはっきりした価値観と判断基準の土台をもつことになるでしょう。偏った宗教観にまどわされないためにも、人生の選択を誤らないためにも、とても重要な学びだと思えます。また、入試説明会、オープンキャンパス等で、本校のキリスト教教育について、よく理解して入学する生徒、保護者が多くなっていることからこのグラフの推移の意味を考える時、中2での回答の落ち込みが緩やかになっている理由として、生徒、保護者が、入学時より「生きる指針」としてのキリスト教教育を理解し、求める時代であることがあげられるのではないのでしょうか。

また、本校の解放(人権)教育が、項目(A)キリスト教教育と分かちがたく結びついていることが、(A)(B)のグラフの形が近似していることによく表れています。教育は生徒の考え方に大きな影響を与えます。生徒自身が、自分の五感で感じたことをもとに判断し、自由にものごとを考え、生き方を決めていくために、「人権」は最も重要な視点です。その「人権」を本校生徒はキリスト教の精神とともに学んでいるということでしょう。

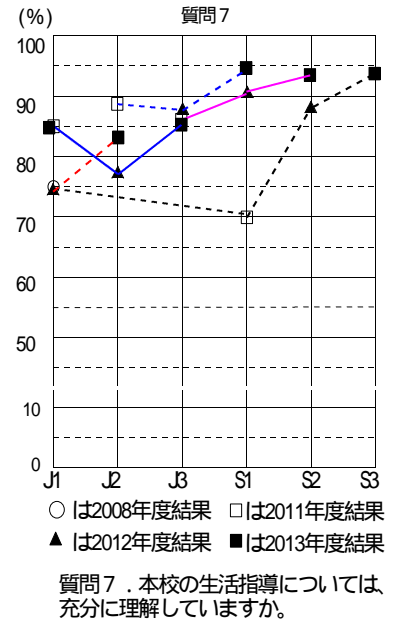
【 自己評価 】

(B)行事、生活指導、進路指導等を通じてよりよい人間関係を構築する

大阪女学院中高は今年も、本当の自由、他者の人権への配慮、キリスト教の精神に基づいたマナー、礼儀、身だしなみ等の指導に継続して取り組んできました。また、2011年度から始めた「あいさつ運動」、登校指導についても、教員の輪番による立ち番指導を続けています。

(質問7)「本校の生活指導において大切にしている「自由」-「自己中心的な自由」ではなく「本当の自由」-について、自分は理解していると思いますか。」

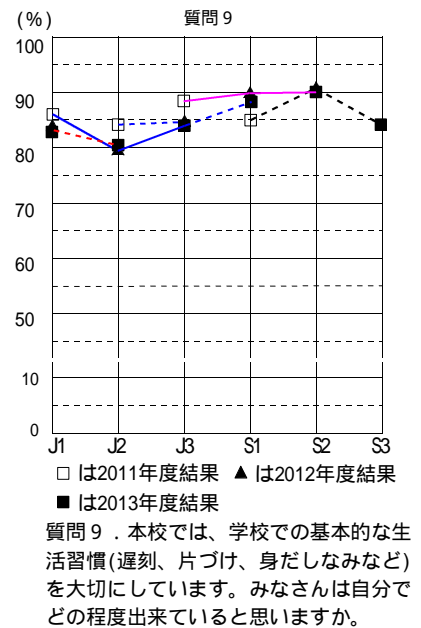
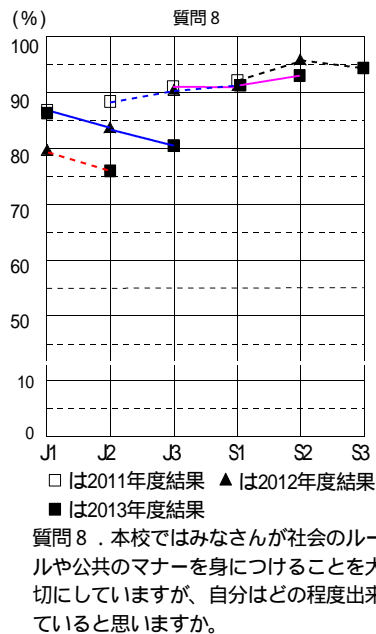
この質問は、は2008年度2011年度に「本校の生活指導については、十分に理解していますか」という形で問い、昨年度より同じ内容を、上記文面のように少し丁寧な問うことにしたものです。この質問については、高校生になると中学生の時の数値から10ポイント以上、上昇が見られるのが特徴です。「自由」の意味や質を問うものなので、中学生にとって質問の意図がわかりにくいという理由が一つ考えられますが、あるいは自己中心的な振るまいをある程度抑制できるようになる高校生に対して、中学生は自己中心的な自分をコントロールすることはできないけれど、自覚することはできているというふうに考えることもできます。



(質問8)「本校ではみなさんが社会のルールや公共のマナーを身につけることを大切にしていますが、自分はそれができていると思いますか。」

(質問9)「本校では、学校での基本的な生活習慣(遅刻、片づけ、身だしなみなど)を大切にしています。自分にはそれができていると思いますか。」

質問8については、学校外でのふるまいについて、質問9では校内での生活習慣について尋ねています。質問8・9ともに中1から中2または中3にかけて下降をたどり、高1になると、90%前後に安定します。中1から中2での下降は、入学直後の緊張感から解



き放たれて、だらしくなるということもありますが、自分の行動が周囲への配慮に欠けていることに気づき始める時期であることにもよると考えられます。また、高校生になると、質問8の学校外の公共マナーについては意識して気をつけられるようになる一方で、学校内での自分の時間、整理整頓、服装についてはやや気持ちの緩みが見え、コントロールできていないということがわかります。

質問10)「本校では、『心に届くコミュニケーション』を目標としてあいさつ運動を行っていますが、自分はそれに取り組んでいると思いますか。」

2011年度に始まった「あいさつ運動」とともに加えられた質問です。グラフから、学年によって意識にかなりのばらつきがあることがわかります。高1、高2については、2011年度当初から高い意識で推移していますが、中3については、例によって中2で深く落ち込み、中3でやや回復、高3については2011年度のスタ

ート時点での意識は低いですが、2年目からは他学年に追いついています。「あいさつ運動」は、言われたからするというのではなく、自分自身で「あいさつ」の大切さをわかって持続していくことが何より大切な運動です。高校生から中学生に運動の意味をよく伝えながら、全校生徒で地道に続けて取り組むことが重要だと思えます。

【 学校関係者評価 】

「本当の自由」という難しいテーマについて、生徒たちにはどのようにして伝えているのかという質問が、関係者からあり、学校の取り組み、日々の指導の姿勢について、次のようにお答えしました。

「なぜ、私たちが生徒の自主性を重んじ、自由を尊重していくのか」という考え方については、入学前の入試説明会やオープンキャンパスでもはっきりと本校の考え方として受験生や保護者にお話ししています。また、入学後生徒には主に礼拝の中で話していきます。私たち人間が神から与えられた自由の中でよりよく生きて行くために、私たちは自分の頭でよく考えて行動する力を身につけることが大切であるということです。また、具体的には生活指導、授業への取り組み、行事や部活あらゆる場面でこの考え方に基づいて指導するべく努力しています。中学1年生の遠足での現地集合、現地解散があるのもその一つです。人からさせられるのではなく、自由の中で選び、自分で責任をもって行動していく。これもまたキリスト教教育と不可分です。

昨今のスマートフォンの普及による影響、フェイスブックやツイッターの影響について質問があり、次のようにお答えしました。

家庭でのルールづくりと管理が不可欠であることを保護者に伝えていきます。専門の講師を招いて管理とはどうすることかを講演してもらったり、特に中学生には入学者説明会に加えて、4月末の1年生の学年保護者会等で繰り返し呼びかけています。また、生徒対象にも講演会を行い、本校で作成した冊子を使って指導しています。ただ、やはり中学1・2年生をはじめ一部の生徒には怖さが分からず、安易に個人情報やUPするなどセキュリティの甘さや、人権意識の低さが目立ちます。また、一時の感情でネット上に書き込んだことが友だちを傷つけたり、人間関係を壊してしまったりするトラブルもあります。特にラインの普及以後、友人関係の枠組みの変化のようなものを感じています。

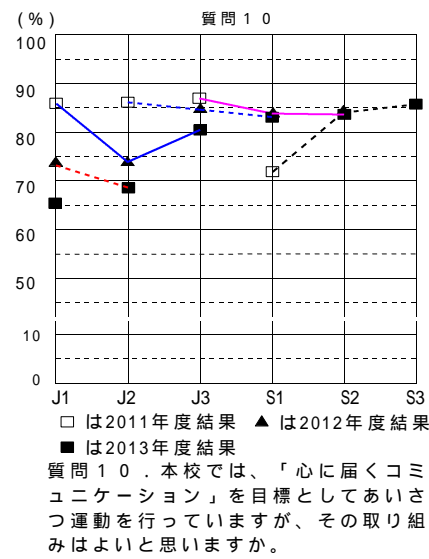
校内での生徒同士、教職員への挨拶、また来校者への挨拶ということは、生活指導委員会からの提案で、かなり改善してきましたが、今後まだ努力が必要です。マナーや心遣いという面に加えて、防犯の意味でも、呼びかけを強化したいところです。

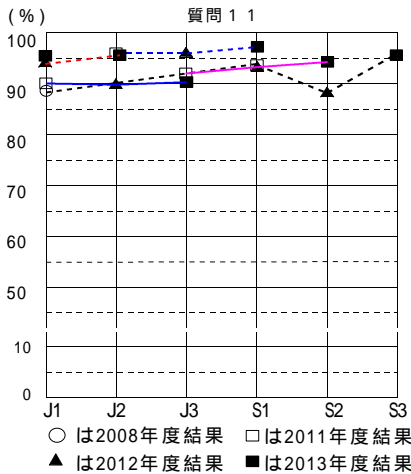
【 自己評価 】

(質問11)「本校では、生徒会主催の体育大会・文化祭が活発に行われていますが、生徒同士の関わりを深めることに有意義であると思えますか。」

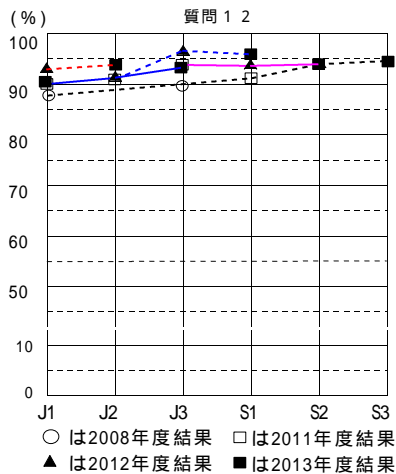
(質問12)「学年が実施主体となって行われる修学旅行、スキー学習(中1)、合唱祭、水泳大会等の学校行事は、友達との関わりを深め、クラスの一体感を強めることに有意義であると思えますか。」

文化祭、体育祭また学年主体の行事について、学年によって少しずつ描くカーブは違いますが、いずれも90%以上の生徒が有意義であると答え、最終学年の高3での値が最も高くなるのが特徴です。学校で学ぶことはたくさんありますが、互いが力を合わせて、一つのものを作り上げる楽しさ、喜び、感動は、何ものにも代え難く、長い人生を生きていく支えとなります。友人を信じて心を通わせ、深く繋がっていく経験を、卒業までに95%近い生徒がすることができるのが、大阪女学院の大きな魅力であることを再確認します。

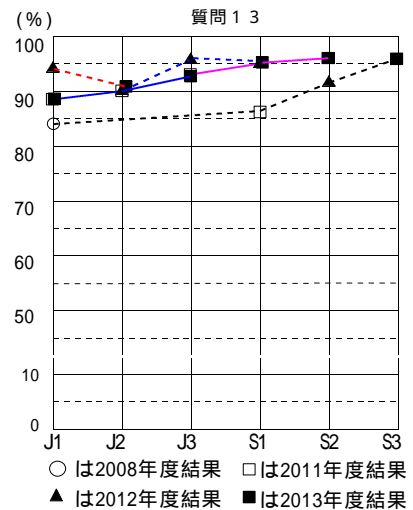




質問 1.1 . 本校では、生徒会主催の体育大会・文化祭が活発に行われていますが、生徒同士の関わりを深めることに有意義であると思いますか。



質問 1.2 . 学年が実施主体となって行われる修学旅行、スキー学習(中1)、合唱祭、水泳大会等の学校行事は、友達との関わりを深め、クラスの一体感を強めることに有意義であると思いますか。



質問 1.3 . あなたにとっての学校生活は、楽しく充実していると思いますか。

(質問 1.3) 「あなたにとっての学校生活は、楽しく充実していると思いますか。」

中1、中2がおおよそ90%、高校生は全学年で95%を超えています。一人一人の生徒が大阪女学院を「私の学校」として愛し、卒業しても長く友人とつながり、節目節目に学校を訪れる理由は、この回答に凝縮されて表されています。授業や礼拝、行事等、すべてのプログラムの中で育まれる「学校生活が楽しく、充実している」という実感は、本校の教育のかけがえのない大切な成果です。

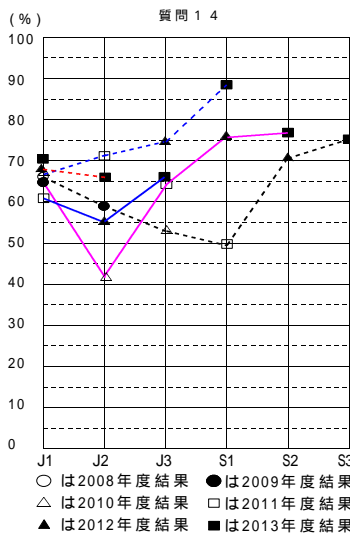
【 学校関係者評価 】

学校評価が始まって以来、これらの質問についての回答が常に90%周辺を推移していることは、本校の大きな特徴であり、誇りです。これは、生徒自身がこの学校の主体であることの証であると思います。卒業生から受け継がれた大阪女学院への深い愛校心は、今も健在です。

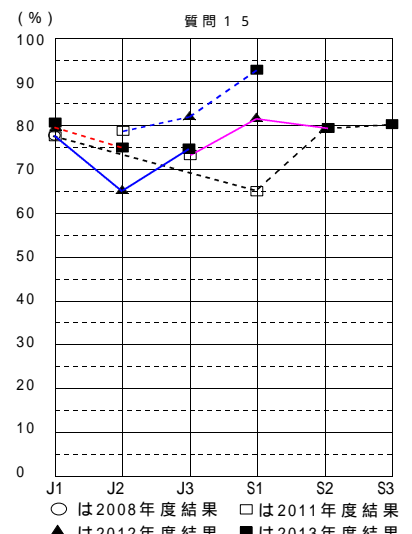
【 自己評価 】

(質問 1.4) 「本校の先生は、生徒の悩みの相談によくのってくれていると思いますか。」

(質問 1.5) 「本校の先生は、生徒が充実した学校生活を送れるよう心がけて指導していると思いますか。」



質問 1.4 . 本校の先生は、生徒の悩みの相談によくのってくれていると思いますか。



質問 1.5 . 本校の先生は、生徒が充実した学校生活を送れるよう心がけて指導していると思いますか。

毎年この2つの質問については、中学生の肯定的回答の数値が低いことが特徴です。中2で大きく落ち込む学年が多く、高校生になるにつれ少しずつ回復します。質問 1.4 について言えば、そもそも中学生が自分の内面的な悩みを教師に相談する割合があまり高くない(一番多いのは友人、次に両親)ことが上げられます。高校生になって数値が上がるのは、進路などについて、保護者や友人ではなく、経験豊富な教師に相談すべき悩みが中心になってくるのが大きな理由ではないかと思えます。また、成長に伴い、人生の先輩、人間同士として教師を見ることができるようになることに加えて、生徒と教師の信頼関係が、年を重ねるごとに深まっていくことによることも理由に挙げられるでしょう。

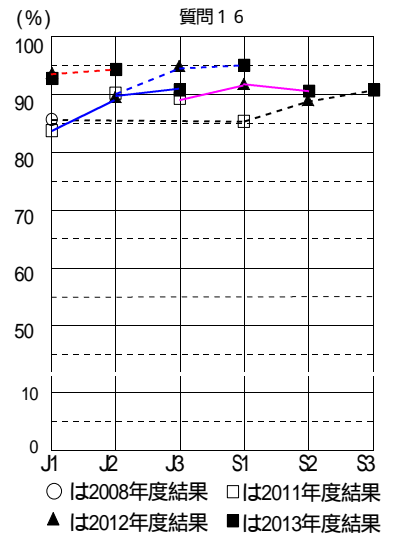
【 学校関係者評価 】

自分たちの中学時代を思い出してみても、悩みを先生に相談するという事は滅多になかったように思う。ただ、相談された時に大人が自分自身の経験を語って聞かせる事ばかりに力を入れ、本人の気持ちをよく聴き、受け止めてやる事が足りていないような気がします。一番大切なのは気持ちをしっかり聞いてあげることはないでしょうか。これは夫婦や教職員同士の関係にも言えることだと思います。めまぐるしい時代の変化の中で、人生の先輩としての経験がそのまま次世代に当てはまらないことも多い上に、ネット環境の利用の仕方等からくる感性のギャップがあることも意識して、互いを理解していく必要があると思います。

【 自己評価 】

(質問16)「本校のクラブ活動は、活発な方だと思いますか。」

クラブ活動の成果については、バトン部やスキー部、中学、高校テニス部の全国大会での活躍のみならず、2012年度に引き続き、2013年度も、大阪府私立中学校総合体育大会において、大阪女学院中学校がすべての運動クラブの公式試合参加、戦績の累積による「総合第2位」を受賞したことは大きな喜びです。吹奏楽部、茶道部など文化部の地道な活動をはじめ、多くのクラブが独自の活動を幅広く行い、大阪女学院中高の自由で個性あふれる校風を創り出しています。クラブ活動の意義が、目に見える華やかさや成果だけではなく「自分たちの学校」を創造することだと、生徒一人一人がクラブ活動の意義を認識していることが、この質問に対する肯定的回答の高さからわかります。環境を整え、顧問を立てて、多彩なクラブ活動を継続していくには厳しい現実ですが、生徒の教育には大変重要な活動です。助け合い、工夫し合って守っていきたいと思います。

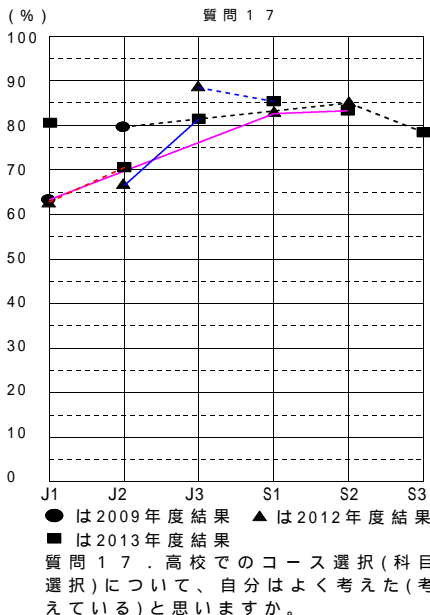


質問16. 本校のクラブ活動は、活発な方だと思いますか。

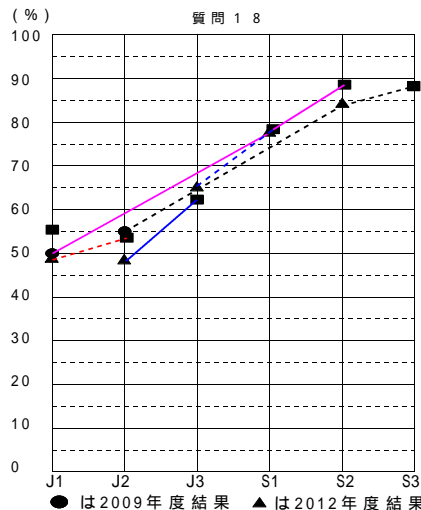
【 学校関係者評価 】

本校生徒のクラブの加入率はどのくらいかという質問に対して、次のように答えました。前回(2014年、6月)のクラブ人数調査によると、のべ数で中学生が108%、高校生が約80%(掛け持ちをしている生徒を含む)でした。うち運動部の比率は約60%です。運動部の生徒はほとんど掛け持ちはしていませんので、実数に近いと思われます。

学習との両立や人間関係の構築など、学ぶ事も多く、また一方ではうまくいかない悩みを多く抱えるのがクラブであると想像されます。



質問17. 高校でのコース選択(科目選択)について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。



質問18. 高校を卒業したあとの進路について自分はよく考えた(考えている)と思いますか。

【 自己評価 】

(質問17)「高校でのコース選択(科目選択)について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。」

(質問18)「高校を卒業したあとの進路について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。」

質問17については、中学1年生から3年生までは、順調に肯定的回答が伸び、中3では80%以上の生徒が、よく考えて選択したと答えています。しかし、どの年度の入学生も高1で上昇のカーブが止まり、ともすると下降ぎみになります。自分の選択は間違いではなかったものの、現実の厳しさや、学習への取り組みの甘さに気がつき、改めて進路について考える機会となるようです。

しかし、質問18のカーブは、どの学年もなだらかな上昇のカーブを描いています。高校を卒業してからの進路については、夢や目標に向かって、少しずつですが進んでいることがわかります。中1～中3の生徒の、質問17と質問18の回答のギャップは、卒業後の進路をよく考えないまま、高校のコースを選ぼうとしている現状を示しています。保護者の意見や、周囲の意見、外聞などに惑わされず、また学習をおろそかにせず、自分の意志でコース選択ができるように、今後さらに、中学からの進路指導に力を入れていきたいと考えます。

【 学校関係者評価 】

中3でのコース選択の持つ意味について、以下のように説明をさせていただきました。

2012年度より中学の指導要領の改訂(完全実施)、2013年度より高校の指導要領の改訂(順次実施)がありましたが、大学入試の科目については、指導要領の変更とセットで発表されるのではなく、入学してきた生徒の入試科目が、入学後に変更、発表されるのが実情です。学校はその度に大学からの変更に対応すべくカリキュラム改訂を行わざるをえません。生徒も同じようにその現実に対応して行かなくいなくてはなりません。質問17についての複雑な回答の推移は、そのような現状と深い関わりがあるとも考えられます。

【 自己評価 】

(C)教科学習、国際理解教育による豊かな学力と進路

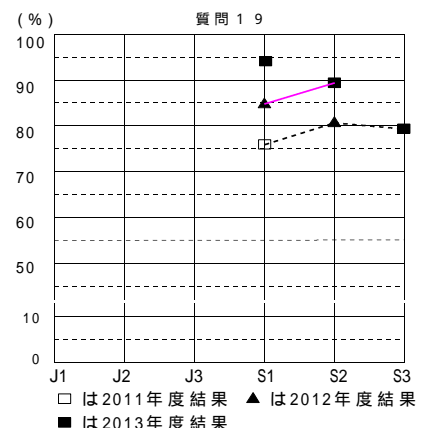
質問19。「本校は毎年交換留学生を受け入れています。留学生が本校で生活することにより、国際理解が深められていると思いますか。」

この質問は、高校生のみに対するものです。本校では、YFUの年間留学生1名、姉妹校からの短期留学生2～3名、YFUの韓国からの短期留学生を受け入れています(カナダの提携校との交換留学も2012年度からスタートしました)。今年の高3については、高1の時には原発事故により、高2の時は、留学生の事情で年間留学生との十分な交流ができませんでした。短期留学生との交流は充実したものになりましたが、残念なことでした。一方今年の高2は、年間留学生や短期留学生と本当に親しく充実した交流ができたため10ポイントの差がついていると考えられます。

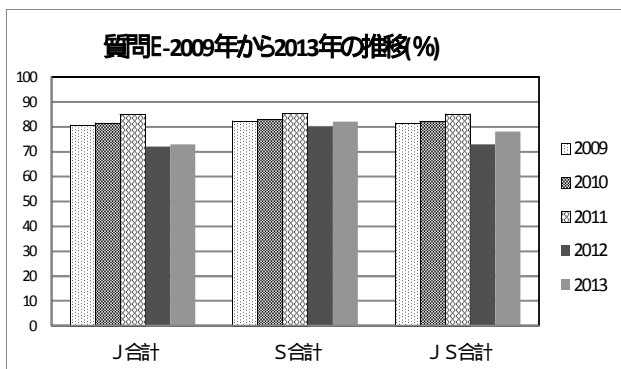
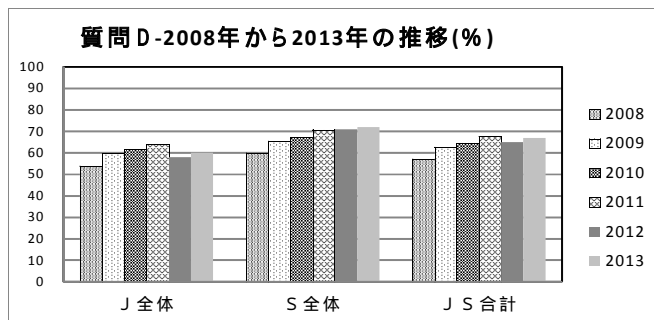
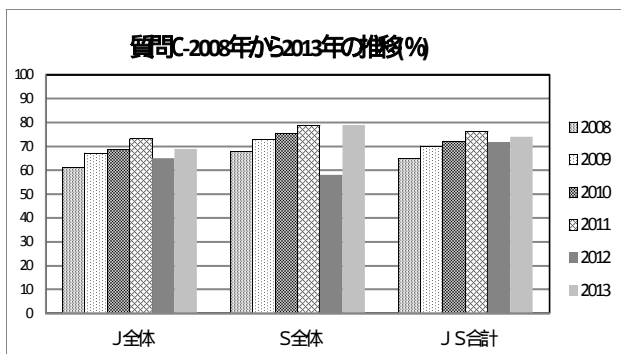
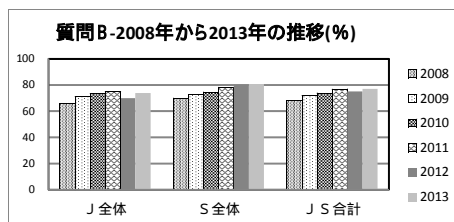
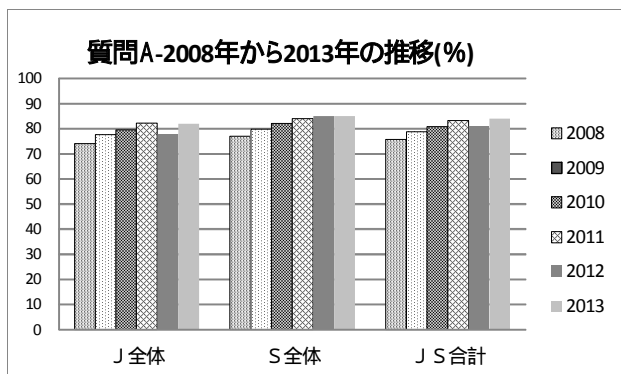
【 学校関係者評価 】

大阪女学院で受け入れるYFU年間留学生のカリキュラム等について質問があったので、次のようにお答えしました。

これまでの留学生は、日本に興味関心を持ち(日本のアニメはとても人気がある)、何らかの形で日本語を学んで来日します。本校ではクラスの一員として受け入れ、いっしょに授業を受ける教科もあり、また日本語では内容理解が難しものについては、別の学年の芸術教科などに出る科目もあります。また、日本語の時間があり、専門の先生の授業を受けて日本語検定の取得を目指しています。また、ホール会クリスマスや中学の暗唱大会などで、日本語でスピーチをする機会をもっています。昨年の留学生は日本語検定2級を取得。今年の留学生も日本語検定2級を目指して学習しています。昨年の留学生は現在もホストファミリーとの交流が続いており、この夏も大阪女学院を訪ねてくれました。



質問19. 本校は毎年交換留学生を受け入れています。留学生が本校で生活することにより、国際理解が深められていると思いますか。



質問A . 先生は、年間の授業計画を説明し、計画通り行っていると思いますか。

質問B . 先生の説明は、はっきりして分かりやすく、テンポよい授業だと思いますか。

質問C . 先生は、私語に適切に対処し、クラス全体(分割クラス)の一体感を持たせていると思いますか。

質問D . 先生の授業を受けて、教科(科目)内容に、より興味を持てるようになったと思いますか。

思う やや思う あまり思わない 思わない

質問E . あなたは先生の授業を集中して受けていますか。

受けている ほぼ受けている あまり受けていない 受けていない

【 自己評価 】 (質問Eは2009年度より実施)

2008年度から、4年連続で肯定的回答率が、わずかずつ増加、2012年度でやや下降、本年度は回復傾向です。気がかりなのは、質問E「あなたは授業を集中して受けていますか」で、中学の数値が70%にとどまっていることです。これは平均値ですので、もっと低いクラス、学年があるということです。質問Cは、教師側の課題ですが、大幅に落ち込んでいた高校の数値が回復しました。質問Eは、生徒側の集中力の課題という形で表れていますが、教師生徒がともに授業を創造していくには、両者が各々改善に向けて努力すると同時に、よい授業をともに追求していく努力が、今後一層必要であるといえます。

【 関係者評価 】

同窓生の方から、次のようなご感想をいただきました。

自分たちの頃とは先生と生徒の関係は大きく変わってきていると感じます。かつては、本当に厳しい先生がおられて、授業中に私語や居眠りは考えにくい時代でした。先生の指示には少々理不尽でも、従うのが当たり前でした。教育の場では、教師の権限というものは必要であり、今は生徒の側の努力が少し足りない気がします。また、先生の仕事の量が年々増えていると聞くので、とても心配です。生徒に向き合いつつも、先生方が健康を損なわないで教育に当たれるようにと願います。

2013年度自己評価に基づく2014年度課題

生徒は本校のめざす女子教育、キリスト教教育、人権教育、生活指導における教育方針をよく理解し、ともにそれをめざし、行事やクラブ活動を自主的、創造していく努力のもとに充実した学校生活を送っています。この恵まれた伝統の上に、以下の3つの力をを総合した「生きる力」を身につけることを目指していきます。

1. コミュニケーションの力 互いを高め合うために積極的に相手の意見を聴き、語り合う。
2. 自己管理の力 整理整頓、時間の管理、身だしなみ、公共のマナーの向上。
3. 学 力 授業への集中。行事、クラブ活動と学習の両立。希望進路の実現。

本校における学校評価（自己評価）は、2008年度に始まり、2013年度で6年を迎えます。3年ごとに見直しを行うこととしており、2014年度は2度目の見直しの年に当たります。これまでの生徒たちによる学校評価により、本校が一番大切にしてきたもの、これからも変わらず大切にしていかなければならないものが何であるかが、生徒にも、教職員にも明確になりました。これは評価に取り組んできた成果です。

評価項目の見直しを機会に、改めて今年度から本校の取り組むべき課題を具体的に掲げ、生徒とともにその課題に向かって努力し、その後にふり返りを行うことで、ともに目指すところを確認しつつ学校の力としていきたいと思えます。

以上